

坪田譲治  
生誕130年  
特別展

# 現代絵本作家が描く

2020年3月3日火

5月31日土

# 譲治作品の世界

吉備路文学館  
KIBIJI LITERARY MUSEUM

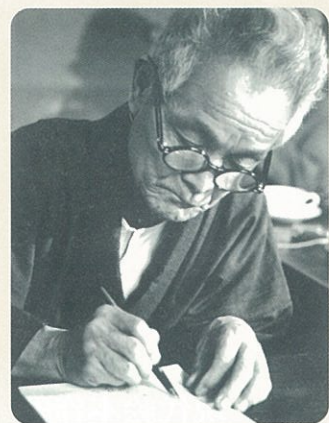
岡山市出身の小説家・童話作家である坪田譲治生誕130年という節目にあたり、現在活躍中の新進気鋭の絵本作家10名による坪田譲治作品の世界を絵本原画を通じて発信します。また今回の特別展では、坪田譲治の直筆原稿等の遺品類の展示を通して、坪田譲治の文学界における功績とその魅力にもせまります。

## ～譲治と善太・三平～

私の小説や童話には、善太と三平が出て来ます。

その頃、この二人は、私の心中、作品の世界では、林の中のコンモリ茂った太い木の下にいました。木を廻っておいかけ合っているようでした。そういうイメージが、いつも頭の中にあったものですから、その善太と三平を一つの事件の中、あるいは環境の中に入れて、すぐに二人は活躍をはじめました。それを舞台を見るようにして描写して行くのが、その頃の私の創作だったように思います。

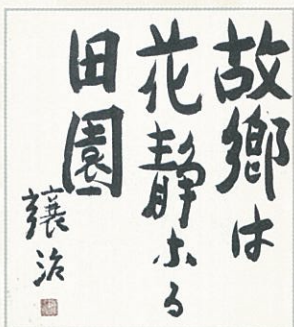
(『坪田譲治全集⑩』(新潮社/昭和53年)「あとがき」より抜粋)



## 坪田譲治(1890～1982年) 岡山市出身の小説家・童話作家。

### 【略歴】

- 1890(明治23)年 3月3日、岡山県御野郡石井村島田(現・岡山市北区島田本町)に生まれる。父はランプ芯やろうそく芯などを作る島田製織所を経営。石井尋常小学校、御野高等小学校、石井小学校高等科、養忠学校、金川中学校(現・御津高等学校)を経て、上京。
- 1908(明治41)年 早稲田大学文科予科入学。小川未明を訪ね、以後、師事。
- 1915(大正4)年 早稲田大学卒業。その後、昭和8年まで帰郷と上京を繰り返しながら文学に取り組む。
- 1927(昭和2)年 鈴木三重吉主宰の雑誌「赤い鳥」(赤い鳥社)に作品発表。以後、鈴木三重吉に師事。
- 1935(昭和10)年 山本有三の紹介で「お化けの世界」を雑誌「改造」(改造社)に発表。世に認められるきっかけとなる。
- 1936(昭和11)年 『お化けの世界』(竹村書房)が日本大学芸術科賞を受賞。
- 1939(昭和14)年 『子供の四季』(新潮社)が新潮社文芸賞を受賞。
- 1955(昭和30)年 『坪田譲治全集』全八巻(新潮社)が日本芸術院賞を受賞。
- 1961(昭和36)年 自宅の一隅に「びわのみ文庫」を開設し、公開する。
- 1963(昭和38)年 童話雑誌「びわの実学校」(びわのみ文庫)を創刊、主宰する。
- 1969(昭和44)年 『びわの実学校名作選』(東都書房)が毎日出版文化賞を受賞。
- 1974(昭和49)年 童話雑誌「びわの実学校」10年の実績により、朝日賞(文化賞)を受賞。「ねずみのいびき」(講談社)が野間児童文芸賞を受賞。
- 1982(昭和57)年 7月7日、死去。



墨書「故郷は花静なる田園」



『お化けの世界』  
竹村書房/昭和10年



最初の童話集『魔法』  
健文社/昭和10年



原稿「狐狩り」  
雑誌「赤い鳥」9巻3号(赤い鳥社/昭和10年)掲載



童話集『狐狩り』  
健文社/昭和10年



最初の昔話集『鶴の恩がへし』  
新潮社/昭和18年

併催

企画展『吉備路近代文学の14人展』

うんざくら 鬱金桜茶会のお知らせ

日時：4月11日(土) 9:30～15:00

会場：吉備路文学館